

2019年4月16日

2019年度（第22回）「野間文芸翻訳賞」決定のお知らせ

平素より弊社の出版物にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

株式会社講談社は、第22回野間文芸翻訳賞を下記の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。なお今回の対象言語はドイツ語です。

◆受賞者と受賞理由

受賞者：ウルズラ・グレーフェ Ursula Graefe

受賞理由：村上春樹『1Q84』（新潮社2009年）および東野圭吾『容疑者Xの献身』（文藝春秋2005年）の翻訳を中心とする永年の業績に対して

受賞者：ノラ・ビーリッヒ Nora Bierich

受賞理由：大江健三郎『取り替え子（チェンジリング）』（講談社2000年）の翻訳を中心とする永年の業績に対して

◆選考委員

松永美穂（早稲田大学教授・翻訳家）

高橋慎也（中央大学教授）

ドゥッペル メヒティルド（上智大学教授）

◆贈呈式

日時：2019年10月17日 18:30～

場所：Intercontinental Frankfurt（ドイツ・フランクフルト）

◆受賞者プロフィール

ウルズラ・グレーフェ：1956年フランクフルト生まれ。フランクフルト大学で日本学、英語学、米文学を学ぶ。川上弘美、小川洋子、東野圭吾らの作品を翻訳。特に村上春樹の訳者として知られる。

ノラ・ビーリッヒ：1958年生まれ。ベルリンと東京で哲学および日本研究を学ぶ。三島由紀夫、柄谷行人らの作品を翻訳。特に大江健三郎の訳者として知られる。

おもしろくて、ためになる

講談社

◆「野間文芸翻訳賞」とは

「野間文芸翻訳賞」は、日本文化の海外への紹介および国際相互理解の増進に寄与することを目的に、講談社創業 80 周年を記念して 1989 年に創設されました。日本の文学作品（戦後 1945 年以降）を外国語に翻訳、刊行された作品の中から、2 年に一度最も優れた翻訳をした者に贈られるものです。なおドイツ語が対象となるのは 1999 年以来 2 回目となります。

正賞：賞状／副賞：10,000 米ドル

講談社広報室